

目指す区の姿と施策の方向	意見	検討部会	回答	検討結果
I 心地よく暮らしやすいまち				
I-1 健康で安心安全に暮らせるまちづくり				
1 安心安全なまちづくりの推進	<p>作左部委員 ・船江町地域に津波避難所がほしい。</p>	第1部会	<p>総務課 ・今年度、津波から避難が必要な地域や避難場所を調査する事業を行っている。 ・船江町地域における津波からの避難場所についても調査中である。 ・桑名病院は、津波避難ビルとして新潟市と協定を結んでいる。 ・臨空船江会館についても、避難所の候補として検討している。</p>	素案修正なし
	<p>本望委員 ・当自治会では移動しての避難訓練を初の試みとして考えている。それに伴い民生委員として、「災害時要援護者申請」をしていない方の様子をうかがったが、「リヤカーに乗せてもらってまで助けてもらわなくても良い」とか、「足腰は大丈夫でも理解することが難しい」等様々なケースがあった。 ・防災に関しては特定の人だけが知る情報を更に一歩進め、災害に備える体制づくりを強化する必要があると思う。</p>	第1部会	<p>総務課 ・自主防災組織と民生委員の連携のもと、災害弱者の把握に努め、災害時の避難計画を構築することは大切なことである。 ・要援護者名簿の更新時期(6月及び12月)に、自主防災組織(自治会)と民生委員の意見交換会などを開催し、地域の情報や要援護者の情報を共有していく取り組みを、区役所・社協や地域とで検討していきたい。 ・地域で高齢者など災害弱者の方々への見守り活動などを行い、日ごろの状況把握を行う取り組みも進め、災害に備える体制を構築していきたい。</p>	素案修正なし
	<p>作左部委員 ・船江町・浜谷町・空港西の地域に交番があってもよいのでは。</p>	第1部会	<p>総務課 ・東警察署の移転に伴う管轄範囲の見直しの中で、検討事項として取り上げるよう、県警に伝えていきたい。</p>	素案修正なし
2 支え合い助け合うまちづくりの推進	<p>石垣委員 (1) 父親の子育て参加について、「大切です」の表現を「必要」等へ変更した方がよい。 (2) 施策として父親の子育て参加を促進する講座とあるが、同時に区内の事業所等が父親の子育て参加がしやすいような環境作りを促進してもらうことも必要ではないか。</p>	第2部会	<p>健康福祉課 (1) 「大切です」を「必要です」に変更。 (2) 父親の子育て参加の促進には、父親を雇用している事業所が理解して意識を持つことも大切なため、啓発について検討していく。</p>	(1) 素案修正あり (2) 素案修正なし
	<p>和田委員 ・低所得世帯対象の子どもや高齢者への支援事業は、低所得世帯対象であることを表に出さない。低所得者であることを知られたくない気持ちを汲んでほしい。</p>	第2部会	<p>保護課 ・学習習慣支援事業(低所得世帯の中学生勉強会)を計画書に掲載するにあたっては、委員から頂いたご意見と同様の考え方から、内部からも低所得世帯対象である旨の記載は不要とする意見はあった。 ・中学生勉強会は、生活保護受給世帯に限らず、市・県民税の所得割が課税されていない世帯の子どもで、塾・家庭教師・通信教育など有償の教育サービスを利用していない中学生を対象とする事業である。 ・この事業は、経済的援助を必要とする人への支援を目的として、対象を限定して実施するものであり、教育支援センターなどが実施する学習支援に係る事業とは性質が全く異なるものであることを読み取っていただけるよう、あえて低所得世帯対象であることを明記している。 ・なお、事業の実施に際しては、勉強会の具体的な会場名を外部に公表しないことなどで、参加者のプライバシー保護には十分に配慮している。</p>	素案修正なし
I-2 快適な生活環境の整備				
1 交通の利便性が高いまちづくりの推進	意見なし			
2 快適な生活環境づくりの推進	意見なし			

目指す区の姿と施策の方向		意見	検討部会	回答	検討結果
I-3 信頼される区役所づくり					
1 行政サービスの向上		意見なし			
II 人が育つまち					
II-1 学習機会の充実と人材育成					
1 学習支援と生涯学習の充実		和田委員 ・小中学校に(仮称)「地域活動(貢献)部」を設ける。	第2部会	教育支援センター ・小学校は、現在、部活動という領域がない。 ・小学生は、地域教育コーディネーターと学校との連携で、地域貢献を全体が体験しながら学ぶ時期である。そこで、地域と学校パートナーシップ事業の中で、地域清掃や花壇の整理などの地域貢献を果たしている小学校は多くある。 ・中学生の地域貢献は、生徒会の主体的活動として行われる。自分たちで考え行動する大切な場面であり、地域教育コーディネーターの力を借りながら活動をしている。 ・各学校の教育活動における地域貢献は、学校と地域との関係において教育的効果を検討して実施する内容である。すべての学校に共通に創設するというは現実的ではない。「小中学生も地域を支える人材である」ことを、学校経営の視点の一つとしてとらえてもらい、その方策は、学校の裁量を優先する方が現実的だと考える。	素案修正なし
		和田委員 ・進展するIT社会の中で、現場・実体験を重視した家庭教育、学校教育を支援する(仮称)「東区未来応援隊」(区内の全小中学校対象のパートナーシップ事業。例えば、東区出身・在住の各界の人材による出前授業を総括する等)の創設。	第2部会	教育支援センター ・学校現場では、現在でも多くの地域や企業関係者の皆さんに、各学校の必要(出前授業、講演会講師、学習の指導者等)に応じて応援をいただいている。 ・その際には、地域教育コーディネーターが学校と検討しながら、人材の発掘や依頼をしているところが多い。また、東区の地域教育コーディネーターの研修会では、各校での人材リストを東区全体で共有していく取り組みも予定しているため、ご提案の趣旨を実現する体制は整っている。 ・地域教育コーディネーターが全校に配置されたのは今年度からで、今後リストもどんどん拡充されていくことが期待されるため、その状況を把握しながら、具体的な取り組みとして検討する必要があると考えている。	素案修正なし
		西方委員 ・女性を大切に、その能力が発揮され輝いてもらう環境づくりをお願いしたい。	第2部会	地域課 ・新潟市は、男女平等な社会の実現に向け「第2次新潟市男女共同参画行動計画」(平成23年度～平成27年度)を策定した。 ・例えば、審議会等における女性委員の割合の目標を40%以上とすることなど、数値目標を定めて取り組んでいる。	素案修正なし

目指す区の姿と施策の方向	意見	検討部会	回答	検討結果
IV 魅力あふれるまち				
IV-1 個性を活かしたまちづくり				
1 地域の誇りづくり	<p>和田委員 ・区役所1階の南口エントランスホールを、区民の趣味の作品や若者の音楽等表現活動の場として、積極的に活用する。</p> <p>和田委員 ・淳足柵探索プロジェクトや牡丹山諏訪神社の古墳を区外に積極的に発信する。</p>	<p>第2部会</p> <p>第2部会</p>	<p>総務課 ・南口エントランスホールは、庁舎の賑わいづくりに繋げるため、区民の様々な活動の場として広く開放している。(フリーマーケットや老人ホーム入居者の作品展示など) ・定期的に利用している団体もあり、庁舎の活用について区民への周知が進んでいると感じているが、より一層の活用を図るため、区だよりやホームページを通じて情報発信していく。 ・音楽等の表現活動としての利用は、2階に東区プラザ、3階に図書室があり、1階エントランスホール上部とは吹き抜けでつながり音が響く構造となっているため、音量のある活動は難しい状況である。東区プラザが区民の文化活動に資する施設であるため、プラザ内のホールなどをご利用いただくようお願いしている。</p> <p>地域課 ・「淳足柵」や「(仮称)牡丹山諏訪神社古墳」など地域の歴史的文化資源の魅力を、区内に限らず区外にも発信していきたい。</p>	<p>素案修正なし</p> <p>素案修正なし</p>
2 地域産業の支援	<p>石垣委員 ・東区は市内屈指の工業地域とあるが、今後、東区を「ものづくりのまち」としてPR・支援していくのであれば、もう少し積極的に取り扱うべきではないか。 ・三条市や燕市など県央地域がそれらを有効活用しているが、東区の目指す姿が伝わってこない。</p>	<p>第3部会</p>	<p>地域課 ・企業(団体)と連携した事業展開は、企業からの協力が不可欠である。 ・一昨年の企業めぐりウォーク開催や、区役所北口への企業PRコーナー設置、東区スペシャルサイト「にいがた東区ゲンキ魂(ダマ)」による活動紹介などを行っている。また、今年度は、ものづくり体験事業の開催や区自治協議会提案事業である東区の地域産業発見事業を実施しており、企業との連携を進めている。 ・今後も、区として、企業のニーズに沿った支援やPRを行っていきたいと考えている。</p>	<p>素案修正なし</p>
3 自然環境を活かした憩いの空間づくり	<p>意見なし</p>			

東区ビジョンまちづくり計画 各部会における検討結果

目指す区の姿と施策の方向	意見	検討部会	回答	検討結果
4 交流人口の拡大	<p>清野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新潟港将来構想」は、空港沖を埋め立て港を造るもので、山の下や臨港の埠頭を利用するものとは異なり、まちの賑わいや活性化は望めない。 ・ただ連携するのではなく、港のあるまち(区)として、県や市にどんどん要望すべき。 	第3部会	<p>地域課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先月(平成26年8月)に策定された「新潟港将来構想」は、新潟港の30年後のビジョンとして、目指すべき将来像やその実現に向けた取り組みをまとめたものである。 ・その後期(おおむね16年後～30年後)構想において、ご意見のあったフェリー機能移転の計画が2案示されている。 ・ひとつは、空港沖へフェリー機能を移転・集約し、空港への新幹線乗り入れなどを含めた、陸・海・空の交通拠点を形成する「総合交通ターミナル案」。そして、現在の臨港埠頭の物流機能を港口部に移し、そこにフェリー機能を移転・集約する「フェリー機能港口部展開案」。 ・これは、この構想のなかで、「港湾だけでなく、まちづくりや都市内交通の改善などに関する議論が必要」としており、今後の議論に幅広く対応するため2案が併記されています。 ・この機能再編は、東区のまちづくりに大きく関わる内容のため、今後も情報を収集し、自治協議会の皆さんと意見交換をしながら、必要に応じ新潟県に働きかけていきたい。 	素案修正なし
	<p>和田委員</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 東区内の製造業を区内外にPRし、企業見学を観光に取り込む。工場や工業団地、空港や港、さらに史跡や名所などと組み合わせ観光ルートを作成し、東区だけではなく新潟市の新しい観光資源とする。 ② 東区区民ふれあい祭に卸団地などの区内の企業が参加し、「産業のまち」をアピールする。 ③ 竹尾地区の花弁栽培を景観の向上に役立てる。 ④ 大形や石山、竹尾地区の農産物を紹介し、地産地消を進める。 ⑤ 空港と港がある区をアピールするために、空港や港にマーケットなどを定期的で開催し東区の特産品(工業製品・農産物等)を販売する。また空港と港から行ける国々の特産品の紹介や販売もあれば楽しい。 	第3部会	<p>地域課</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 観光面については、東区の弱い部分でもあるため、今後、力を入れていきたいと考えている。今後、実施計画を検討する際の参考にしたい。 ② 企業(団体)との連携のなかで検討していくとともに、ふれあい祭実行委員の皆さんと相談していきたい。 ③ 竹尾地区では、鑑賞菊やユリ(切花)などをハウス栽培しており、景観のためにハウスを取り払うことは、農業者の協力が不可欠だが、温度管理の面からも困難だと思われる。 ④ 地産地消の取り組みは、食と花の推進課が全市的に展開しており、東区では、大形小学校と下山小学校において収穫体験を実施している。 ⑤ 空港や港を活用した事業としては、新潟空港ビルディング(株)の空港フェスタなどが行われており、また昨年、区では空港1階エントランスにおいて滞足柵パネル資料展を行った。今後もPRや活用について検討していきたい。 	素案修正なし